



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	特殊講義案：都市と村落Ⅰ
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
Issue Date	1966
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77380
Type	manuscript
File Information	N026_0134108S34.pdf



MADE BY YAMATO NOTE CO., LTD.
USED SUPERFINE FOOLSCAP MANUFACTURED IN JAPAN

NOTE BOOK

不存誌冊

東洋大学夜間部

昭和二十四年十月八日

瑞光 A25

才一清

徳意志なりとも清和な転は人同社会をも
治の基本的構造の一端を日本に於ける
る実の上に明らかにして置たい。

口民社会における基本的な社会的構
造として家族村落部^{（中世）}と
あつたのは統一が口民生活も

強く支配して居る事は何れの口民
社会にも共通して居ると思われ
るが、その一つの子供として日本の社会
においてこれ等の四つの極端がどんな
形でどんな働きを演じて居るかを
有し

225

先生のあきでほ
 ゐなく愛する
 るすら家族大に
 やれといふ。常
 り病身を奥好
 るの同情はほどく
 にしないといふ
 子。

心とく
流
及
あ
う
あ
s
#

二、小生の四種の社会的統一の内、家族と
 國民とをばその内の世界と外の世界の
 別が甚だしく異なり、^{正しく} 此を第一の
 生活の體験が、^{現在の} 自ら感じ、^{ものごころ} 内は
 我々の社会であらう外は彼等の社会であらう
 自分の可及する家族内では苦楽を
 共に^{する} 物を共にしあふゆる体験を感に
 我々も考へたり共同である場合あり。

といふ組織体

※口民は口家によつて明確に規定
されていゝ口家の領域内での口民の
存在といふ社会である。口家は故に口
民は口家に属する家と縁が外かのカーレン
の内にあり

家と縁の間にあり

知し垣根一つの越した隣り家の家族は
別世やうな^{の様な}へ、さういふ生活が、さう
わづみ、かしくよくあらわし、自分の家の物と
隣家の物のとは紙一枚とその所が
境が決定して居る。余持ちの家族の生活はその
口民は口家の内と外の~~間~~ありとも、^{同じく}
や、似たり性質をもつて、戦争の
時の内と外の関係は全く然と味方の
であり、殺すか殺されかの^境あり。#
家族や口民は、^{隣り家の家族は}口家と縁の間にあり、
垣根であり、それは口家と縁の間にあり、
年とは二つとや、口家と縁の間にあり、

北の海道中口
人の穴居

52
WB

[illegible]

出来るは人間生活に於ては強くな那

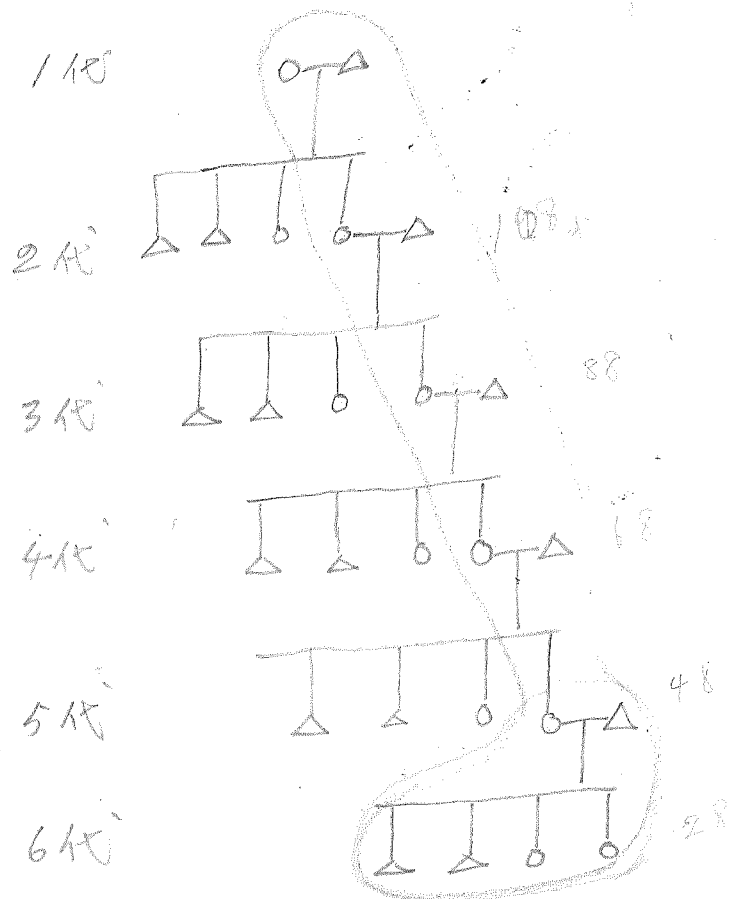
と云ふ。 的統一

以上四種の政治的権力は今より強く
人間生活に支配するべき根柢である。
その内と外とを基として政治団体を
要しおくれはるゝものである。

この四種の権力は人間が共通に
その政治的支配を受けるべき強固
なる政治的統一を要する。人間政治
を秩序づけよう。最も基となる
骨格である。世界人類の世界
は、この政治的統一を要する。

口民部令の内部は如何と雖も、若手
の林蔭又は都市に在る内部は
若手の家族に依りて居る。私共
は人間の様々の経済生活に於て
字す。場合には右の如き人間
経済生活の骨格に於て、
経済が如何なるものである。
し望む、ハハ

老人、病人の安住としての直系家族



トル

申 基本方針として

第一回 清養 我等の世界の拡大

二 家族は愛の苗床であつたと思はれり。

夫婦愛
母子愛
父子愛
兄弟愛
同族愛
隣人愛
村落愛
都市愛
租界愛
人同愛

愛の成長

我等の世界を拡大

（同居関係）
（家族共居関係）
（老人愛）
（同改関係）
（同地関係）

以上十回三十九の清養

二 我等の同じく同居地域の同じく

同居する者が家族

同居しない者は家族ではない

三、親身まで五人位位を抵度の家屋かき
うい人の建築技術とて概然である。である

家族の範域決まのみに親身は必要となつた。

三、親身では同居範域であるとして交々を

打ち出したのである。直子以外四、親身は別居すすきと

の考へられたるありう。

家族の内の結婚を計るゝのは四、五親以上は家
を去るすきである。

三、家屋建築の技術の進歩と同族家族

才五回

学部書曰清義才一立家
又生世業上交易。組織化
壹回只上東會

才回
防衛
(平和)
之
組織
(政治)

◎日本農村の構造

農村の

一、農村の一般の構造

二、村落

日本の農村の構造

農村の構造

農村の構造

農村の構造

三、都市

都市の構造

都市の構造

都市の構造

都市の構造

都市の構造

家族

三
世
分

あ
ま
は
一死
の
かたき
を
し
る
こ
ゝ
ろ
に
お
け
る

型、水中の精神がバカバカ

あゝか
くどい
はく
人の
か
自

仁壽縣志

直子字程子，
萬曆二十一年
卒。

修養名

威も男よふかしく
あまの

一人の生命も全家族にある。

積風

愛
蘇
水
口
馬
公
山
2
片

道子眾形，
乙未上秋，
成曼字以書。

家の人々の

仁
人
の
心
に
か
け
て
お
も
ひ
を
こ
め
る
の
は
一
つ
の
心

女
 の
 海
 の
 さ
 り
 の
 花
 が
 の
 花
 は

此の世のありさまの人の

我条の
W
多
力
丁
史
と
中
最

昌
と
事
事
に
つ
い
い
ん
片
の
の
の
に

花のくは人のことと自由の支え

7

卷五

得る生活に
満足する

同の又徳字を以て其共同の生活態なる
ある。そのれは徳字にのみ共同の生活
態の世界であるからである。徳字は
共同の家の方史を持す共同のほろ
を成にたり共同のはちと（此也）
共同の成にたり各の國へ義あり
同で成にたり怒りやうらみかあ
る。彼等には然るまの秘密もあり
かくしき甚しき也。若果も共す。
是は勿論であり、若くても共同
にして互いにいさめ合ひ互いに
助け合ひ金ぐんを共にして
生活して居る。その一つのは今生する
み。家程丈に過ぎては心であらば
かりなく死んだ家族の人々も共に
いて平心である。さながら一つの心か
あよりほらかな未来まで生ずる。

250

である。家族の一人く、女のこの一つの心を
 自分なりに取捨して所。子供の一人
 か家の心に受れたるをした時には
 未だの産母のいさめ、兄の暴力、父の
 怒がそれを匡正しよりす。や
 皆五九くの立場で家の心を理し
 て片よのいある。

直に家族は家の中に即ち親の所望の
 の精神によつて支配されてゐる。家族
 であつた婦人家族は父の精神の
 存しない家族型である。夫婦家族
 は法律としてヒーマニズムが家族
 成員の人格と自由意志を尊重
 するものによつて秩序を保つ居る。
 この家族型が人にヒーマニズムを教へる
 のには、人は家族生活以外のところ
 (いかに)

(6) 愛し合ひに金よりなく互いに相手と斯くすゝめあへば「能力」正常に持つて居るです。必ずしも「チャーム」氏はその力がなくなつた、其の體弱であつた、病弱になつた時、失業した時、妻にあはれ家族を助けたのである。(直々氣持では夫のようこいば妻のきこいばの思ひが妻の心に入らねば夫婦は一身同体で老死する。

⑦ 家の精神は妻が入嫁する前からあり、妻の心に同化なく存続をついてゆく。代々の妻はこの家の精神に同化して行くだけなわけである。

夫婦がこれに彼等の感じへけ。我々の世も
とあり、我々の苦同作、願ひあり我々のほなりとも
我々の夢れある。
いしそては一つか、たしい建設下あり創造で
あゝ。其同の意、誠が他人に通ふ力は浅いか。
常に他人の意見、勉めを自中にもつくものではない。
以上互いに都市に赴くために頼り合つて行くことが
必要である。不軌の事、私力では到底一人の力
では無條件には支配する事が出来ぬ。故に人の心
何より夫婦はこの形では常にかつた全に今
子や女や男があつて永久に三呼びたいその心とし
て尊重し合ふ結いつきである。
直に宗教とは家を去る。壺の中を二人共
落ちてじんづりたりし時、結合して行かなければ
なくぬ刑士である。一人だけが勝手に我儘を
云へぬ世界である。

才二精
村
張と
都
市

□民社会

同一の統治組織によつて統治されるい
る□民の^同中に是より成る社会生活
の總体に於ける□民社会と云ふ。
□民の社会生活の總体が□民^{生活}
よつて形成されることと見たり故に
□民社会即ち□民を考へたり
すものほとんではないものである。
一人くの□民は□民のため又は
□民の^{命令}するまに^{命令}を生活してゐるは
なつ。□民は□民を^{命令}して
ゐるばかりか□民を^{命令}して
ゐる、互換いたりする。

口良は各自その天分と環境
によって、或る大苦をさげ樂を求
め、自分の生活をやりてし樂かなう
めんとして祈つてゐるのみ。
口家のすなと考えようとしても、
屋敷なものとして考へる場合は
めつても口家の中に誠なくんとして
居るゝ場合は強くない。
口家の口良の防衛と生活
の力のためになつて公共の樂
の負う苦味として存在する。
下あふが、氏や樂作は余程

有新たな生業となり得るものと見
えて、たゞ此のる業の席は空
席になつたことがない。古代の常世
の時代封建君主の時代、民衆物の
時代を通じて統治者はペテンによ
つた者、武力によつた者、
選ばれて作つた者、^果精んであるが、
結果に人徳によつた者か否かは
である。

有物存在業であるのは統治者の
席には常に権力がある、武力によ
つた者か否かである。日本統治は

権力と、武力の乱用によつてのみ行
はれる統治を及ぼすその手下の人々
は□民衆をあげ、最高の位置に
つき、最高の所得を得てゐるのか
常である。

□民衆は同一の統治者の手下に
ある人々の社会であるが、その社会
の統治に直接関係してゐる面であ
るにはあるが、それは彼等の社会生活
のほんの一部分であつて、彼等は概
々自身の爲に生きてゐる生活の中
に常々いふ所である。

他の国民同胞と

国民は各自その生活の豊かさを
得るに在るの形の協力をなして、
生活活動のみの協力と生活活
動のみの協力とは全く同様に
質が異なるものである。前記
の二種の協力は国民相互に
協力の範囲には根本的に分
けられ、互に必要である。前者
は合戦による協力であり、後
者は平和による協力である。
平和は他の人々協力の仲介を成
すのは、物か~~た~~は、力をも受け
他の人のものである。

社会的

労働力

物たつと見よ財でありながら、物がそれである
の授受の形式には交易か、貸借
か、世襲かの三種以外にはない。カ
交易は合議的協力の一介の形、
世襲は愛憎的協力の他方の形
である。生産業における協力があつた、
生活における協力があつたによつては
当然である。

口説き合ふにはこれ等の協力の模範
の形があつて存してゐる。生産業の
協定協力があつて、パリンの模範協力
もある。然しそれ等の協力を一應に
のまゝに思ひのままに進行せしめ

協力の関係の各様

① 職場、友人、知人、隣人
仕事関係、趣味関係、労資関係

② 世帯、友人、知人、隣人
親族、友人、知人、隣人

③ 世帯、友人、知人、隣人
交易（贈与、買はか、売はか）

④ 職場、友人、知人、隣人
交易（販賣、買はか、売はか）

口良社長の平

この平によつて、平安を保ちんといふのが、口良社長の平。大から口良は、本来的に保守的である。口良の協力は、利を計つてゐるものではない。他の協力を希望し、口良の協力によつて不利なのは、口良社長の平。口良は、常に口良を維持せんとして、口良を計つてゐる。口良の協力を充分に明かにしなればならぬ。